

一帯一路構想 いかに応じる

東京でシンポ

国際アジア共同体学会(ISAAC)の年次大会「一帯一路からユーラシア新世紀への道」が16日午前9時、東京・お茶の水の明治大グローバルフロントで開かれる。

ISAAC会長の進藤栄一・筑波大名誉教授(国際政治経済学)は「写真」は1990年、初めて中国を訪れた。その後たびたび訪中し、また中国からの留学生や教員らとの交流も通じて、経済発展する様子をみてきた。「特に近年は、近隣諸国と運動しつつ急激に成長しています」。日本では歴史認識や安全保障を巡り、中国警戒論も根強い。だが進藤氏は、中国との付き合い方を間違えると「アジアの敗者になる」とも言う。



一帯一路は、習近平中国共産党総書記が2013年に提唱した現代版シルクロード経済圏構想。中国から欧州までの陸路(一帯)と、南シナ海経由の海路(一路)で構成する大きなプランだ。ISAACは昨年11月、「一帯一路日本研究センター」を発足させた。参加国の利益にかなった成長戦略の策定、参加国全体の利益にかなった地域統合を見据え研究を進めている。

大会は午前が若手研究者らによる報告など。美術評論家・思想家の岡倉天心の思想と行動を受け継ぎ、アジア地域統合に関する優れた研究を顕彰する「第6回岡倉天心賞」(毎日新聞社後援)の受賞者も発表される。さらに元国連大使で同センター顧問の谷口誠氏の基調講演「一帯一路と日本文外交の進路」がある。

午後の部では、元上海総領事の小原雅博・東京大教授や坂東賢治・毎日新聞論説委員らによるシンポジウムなどがある。

会員500円、一般2000円。申し込みはメール(info@isac.asia)、もしくはホームページ(<https://www.isac.asia/>)。【栗原俊雄】